

1 市政運営の基本方針

～“スマイルシティふくろい”の実現に向けて～

令和4年度は「**変化を受け入れ、変革を促す年**」と位置づけ、次の時代への変革を生み出すことにより、子どもから大人まで、市民がいつまでも住み続けたいと感じ、誰もが生き生きと心身ともに健康で、笑顔あふれる「スマイルシティふくろい」に向けて、全力で取り組みます。

◇ 新年度の重点取組項目

- 1 **地域産業の振興と脱炭素の推進**
- 2 **健康寿命日本一の実現**
- 3 **人間力のある子どもの育成**
- 4 **共生のまちの実現**
- 5 **誰もが暮らしやすい住環境の充実**
- 6 **DXと官民共創によるスマート自治体の推進**

3 予算規模

- ◇ 一般会計の総額は、**365億8,000万円**で、前年度と比べると**9.8億円、2.8%の増**となり、4年連続の増、過去最大の予算となりました。
- ◇ 子どものための教育・保育給付費や障害者自立支援給付費の増などによる扶助費の増加（5.9億円）、静岡モデル防潮堤整備事業の本格化などにより投資的経費が増加（2.6億円）する一方で、産業立地事業費補助金の減などにより補助費等が減少（1.3億円）しています。
- ◇ 特別会計・企業会計を含めた総額は**600億6,100万円**で、前年度と比べると、**12億1,100万円、2.1%の増**となりました。

（単位：千円・％）

区分	令和4年度	令和3年度	比較	
			増減額	伸び率
一般会計	36,580,000	35,600,000	980,000	2.8
特別会計（5会計）	14,368,000	14,535,000	▲ 167,000	▲ 1.1
企業会計 （水道・下水道・病院）	9,113,000	8,715,000	398,000	4.6
合計	60,061,000	58,850,000	1,211,000	2.1

2 予算編成のポイント

～“スマイルシティふくろい”の実現と財政の健全性の両立～

財政の健全性を維持しつつ、「スマイルシティふくろい」の実現を図るため、全ての事業についてゼロベースで見直しするとともに、財源の適正配分と財源効率の向上に努めました。

1 予算編成方針実現のための予算の特別枠の確保

予算編成方針に掲げた施策や、新型コロナウイルス感染症対策事業をより強く押し進めるための予算の特別枠を設け、新たな事業を立案しました。

2 枠配分方式による事業の取捨選択

限られた財源の中で、市民ニーズを熟知した各「部」が事業の成果を検証し、各部長のマネジメントのもと、創意工夫により効率的・効果的な予算編成に努めました。

3 アフターコロナの暮らし・経済を見据えた事業の見直し

全ての事業をゼロベースで見直しとともに、アフターコロナの本市を取り巻く状況や市民ニーズを見据え、事業の見直しを行いました。

4 主要事業

1 地域産業のイノベーション&デジタル化 2億8,800万円

- ◇ ふくろい産業イノベーションセンターでの研究開発を促進し、新事業・新製品の創出に取り組みます。
- ◇ 中小企業デジタル化等実態調査を実施し、中小企業の販路拡大・業務効率化の向上を推進します。

2 海のにぎわい創出に向けた環境整備事業 2,250万円

“浅羽海岸”を市民の憩いの場として、さらには魅力的なスポーツ・観光資源となる“にぎわいを生み出す中東遠の核となる施設”として整備を進めます。

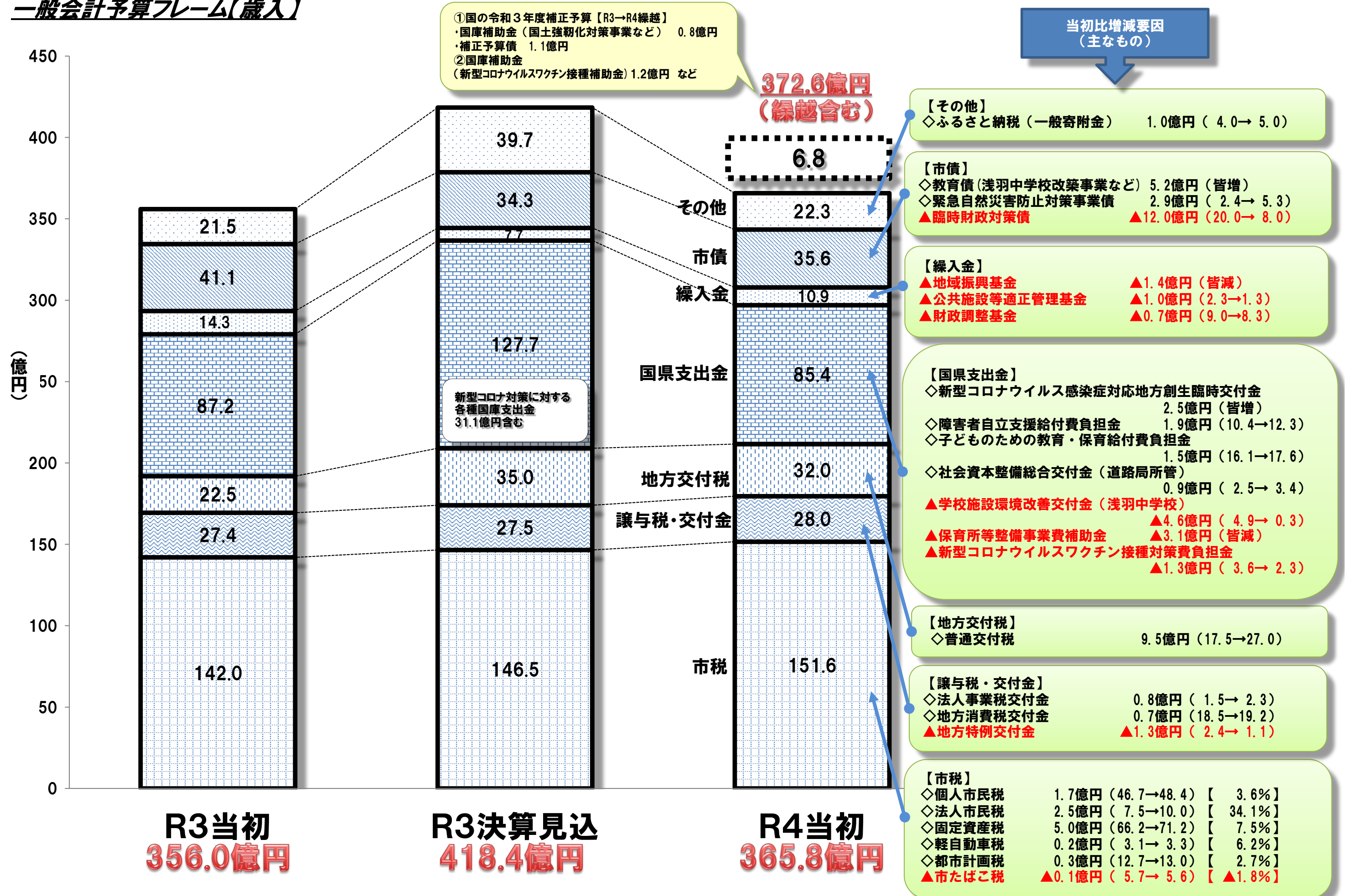
3 脱炭素社会の推進 3,800万円

- ◇ ゼロカーボンシティの実現に向けて、公共施設への太陽光発電施設の設置を進めます。
- ◇ 可燃ごみ削減プロジェクトとして、ごみの分別、リサイクル、様々な市民運動を実施し、令和6年度までに15%の削減を目指します。

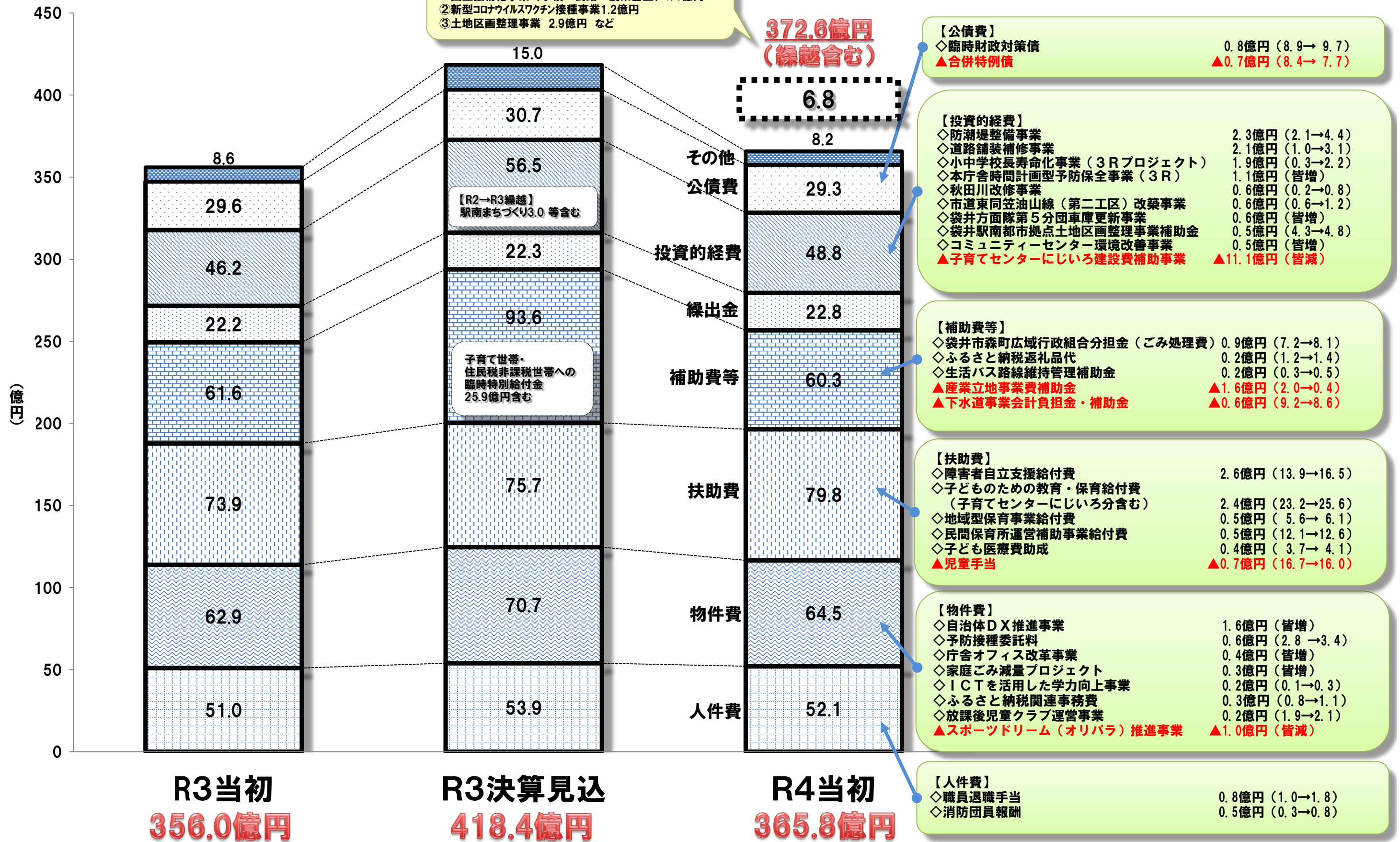
4 新型コロナウイルス感染症対策事業の着実な実施 6億540万円

ワクチン接種事業の速やかな実施はもとより、コミュニティセンターのトイレ手洗い場の自動水栓化やトイレの洋式化、さらには地域経済活性化のための市内店舗を対象としたデジタルスタンプラリーなど、各種感染症対策事業を実施します。

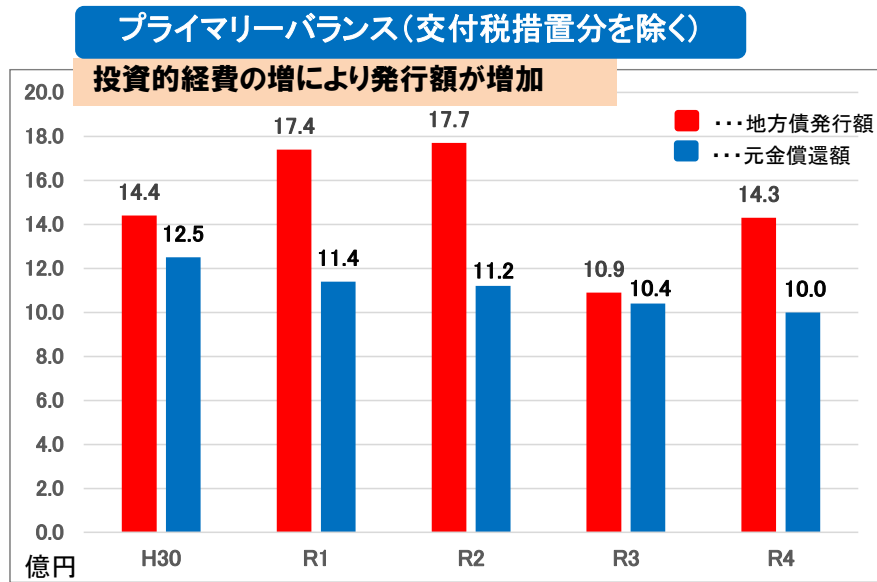
一般会計予算フレーム【歳入】



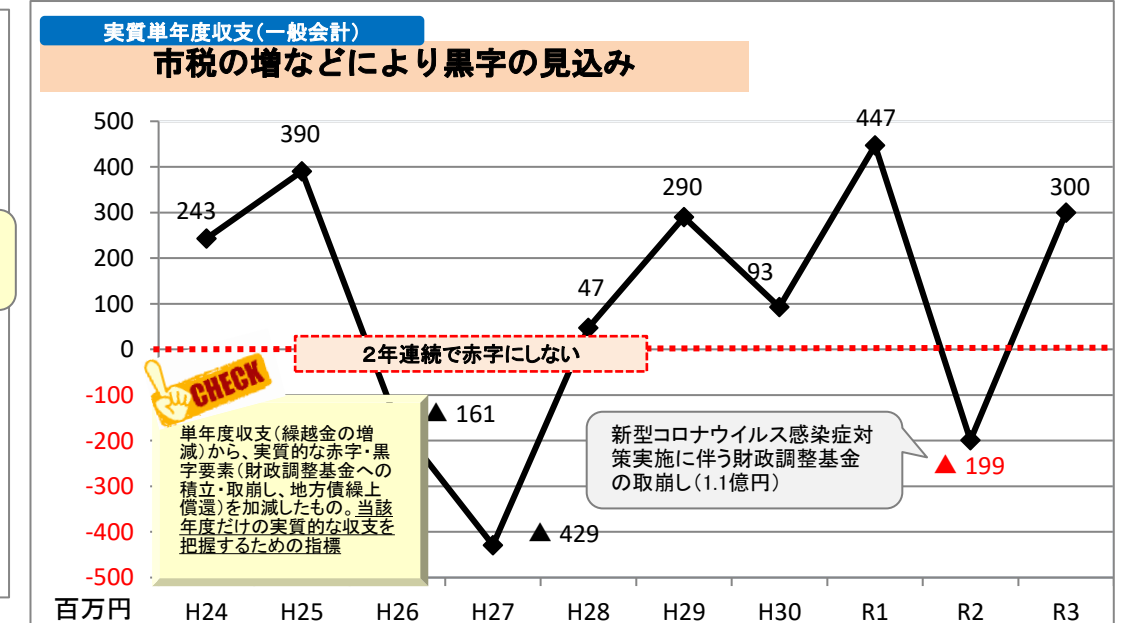
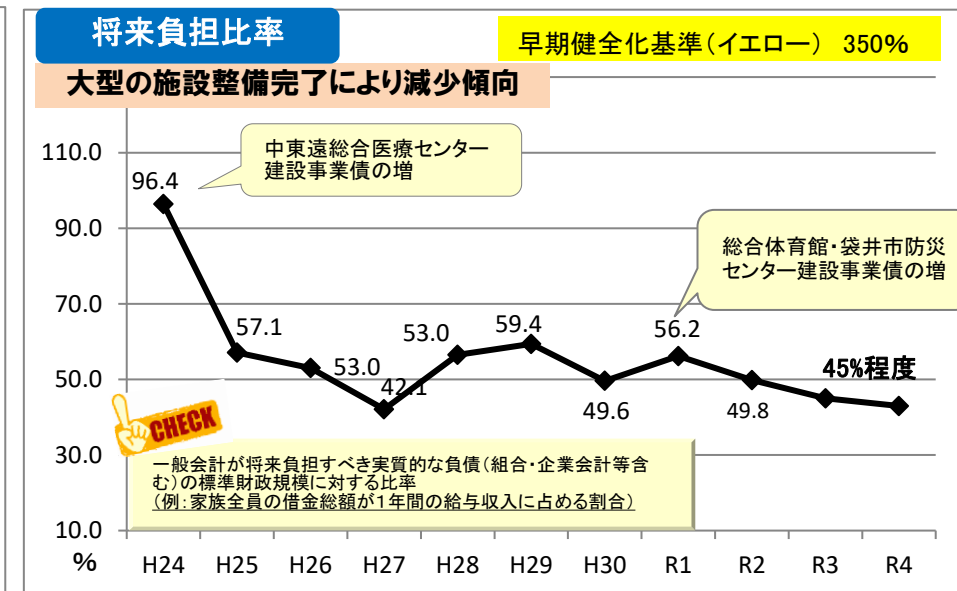
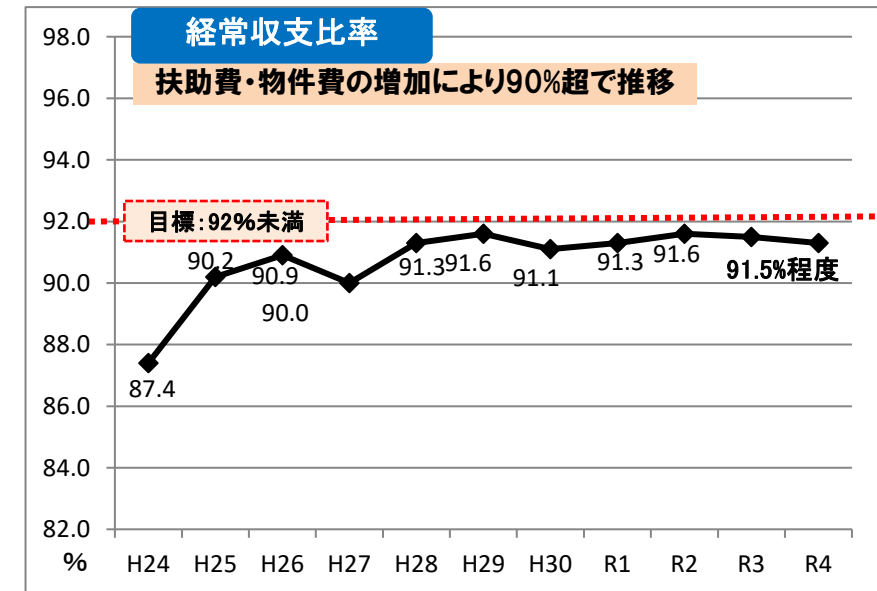
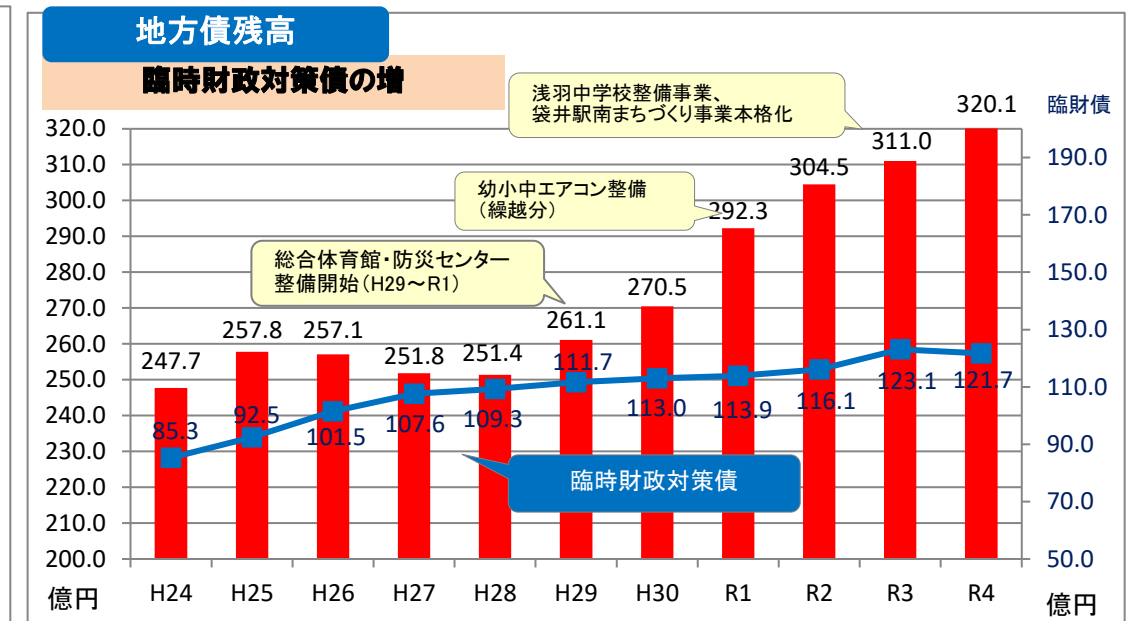
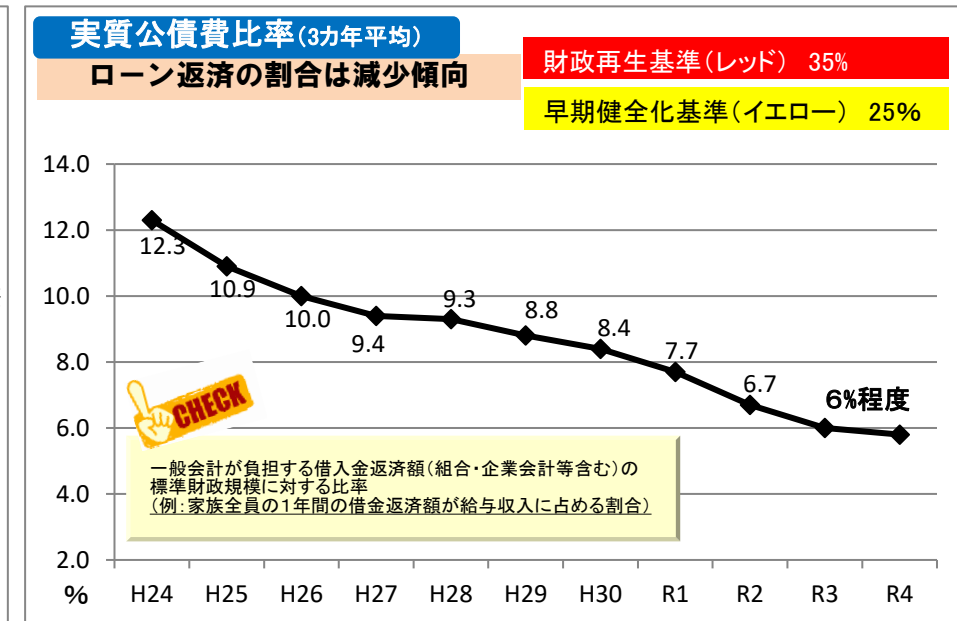
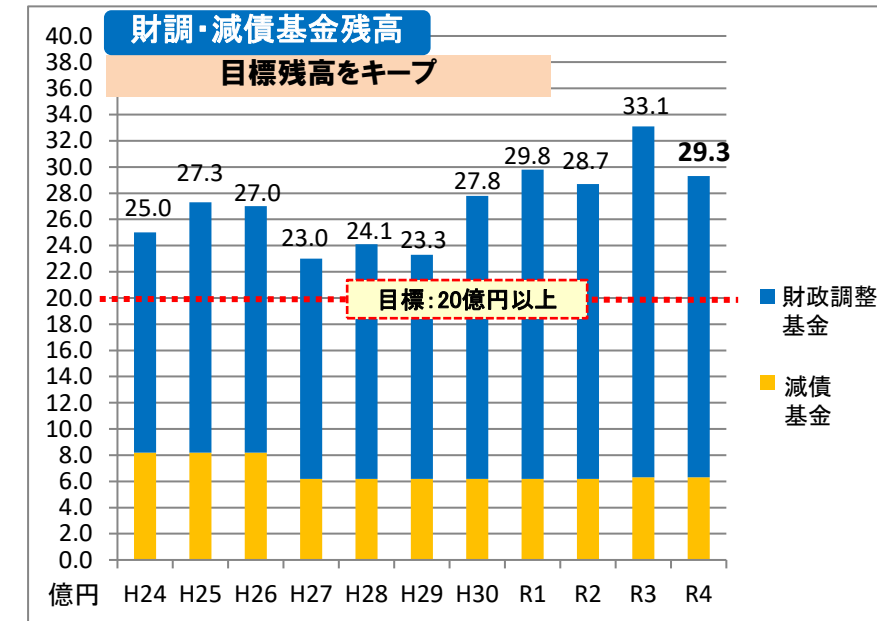
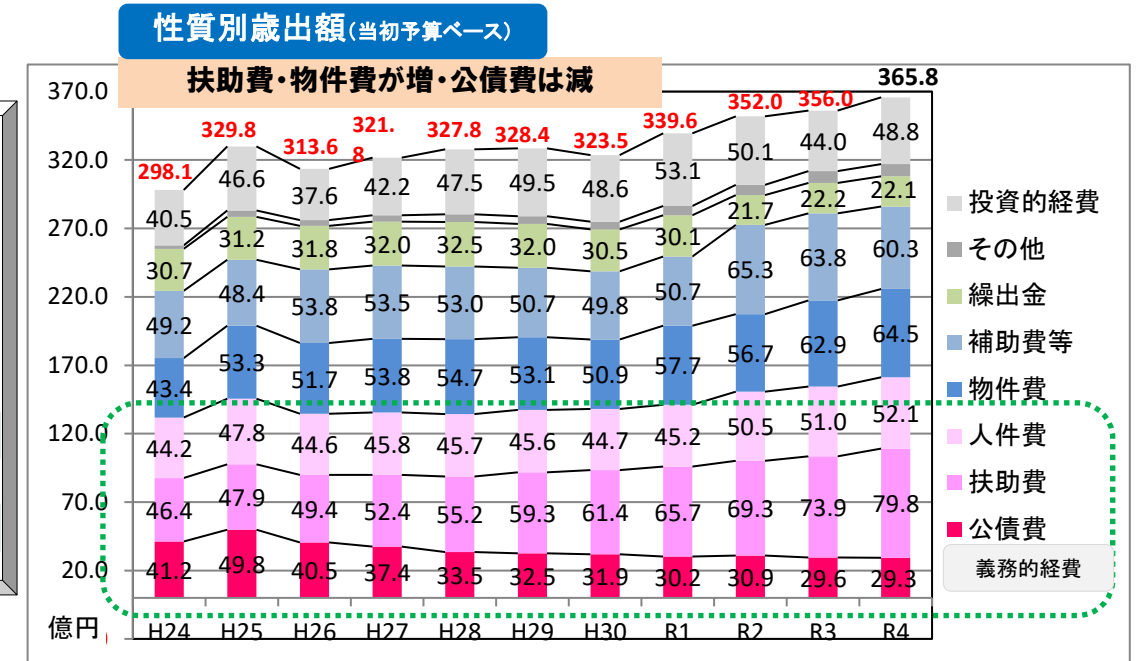
一般会計予算フレーム【歳出(性質別)】



【R 4 当初予算】 各種財政指標等の推移



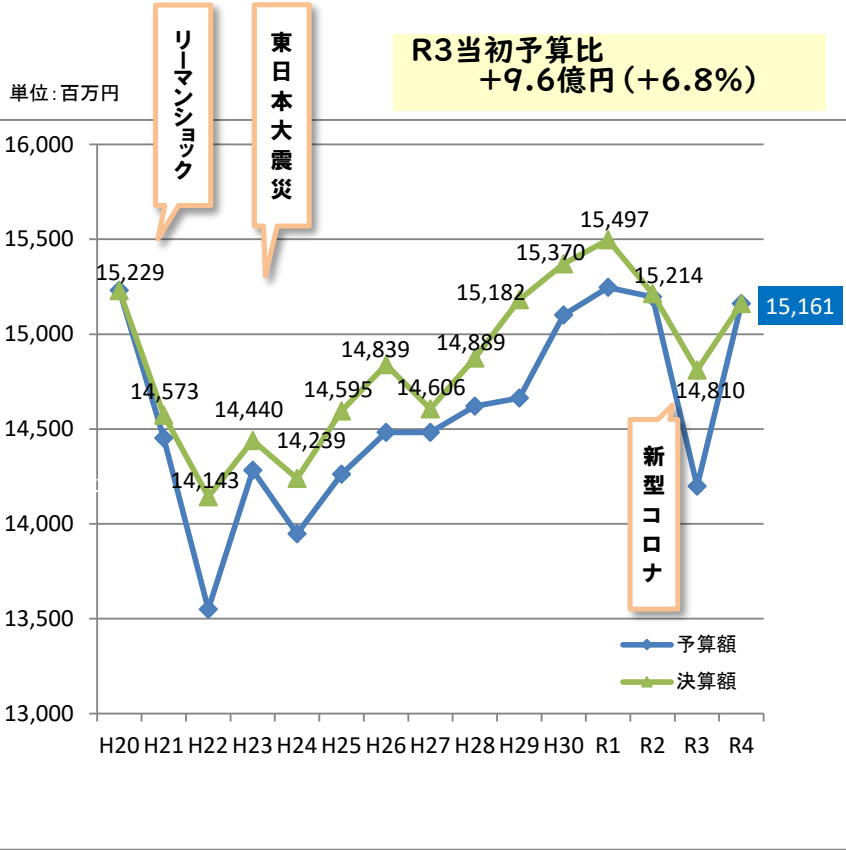
- 【新】健全財政確保のための目標**
- 目標1** 臨時財政対策債など交付税措置分を除いた実質的なプライマリーバランスを維持する。
 - 目標2** 基金残高(財政調整基金・減債基金)は、20億円以上とする。
 - 目標3** 経常収支比率は92%未満とする。
 - 目標4** 実質単年度収支を2年連続で赤字にしない。



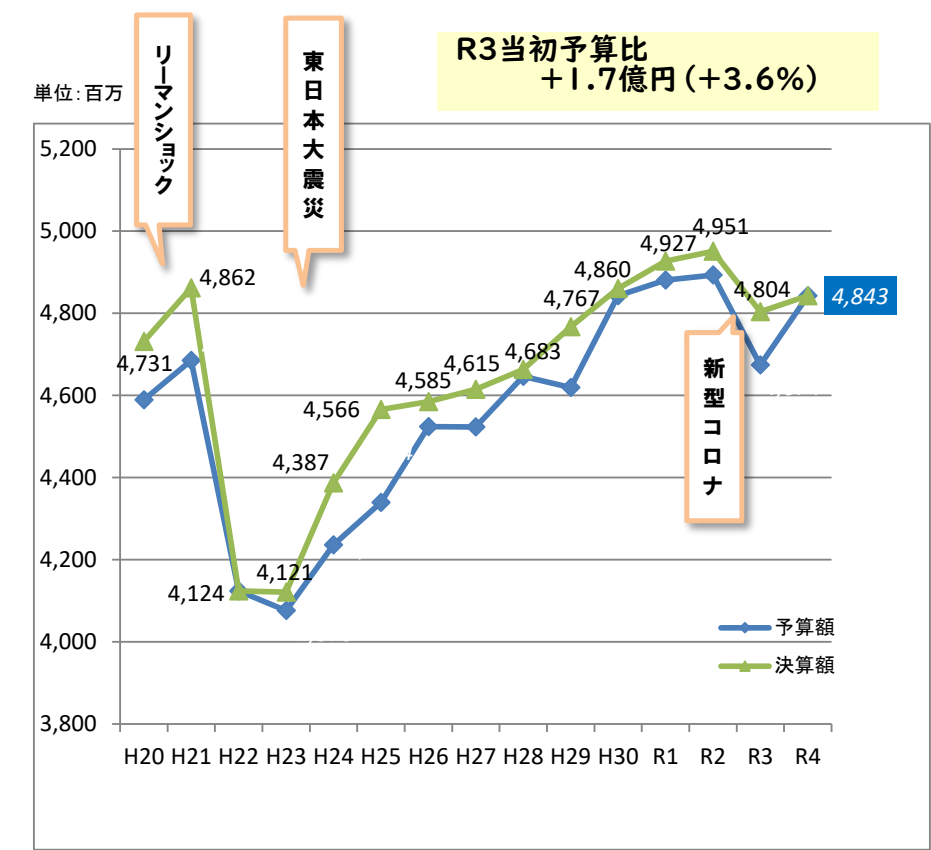
※令和3年度は決算見込。令和4年度は予算額(各種比率については決算見込)。

市税の推移【H20～R4】

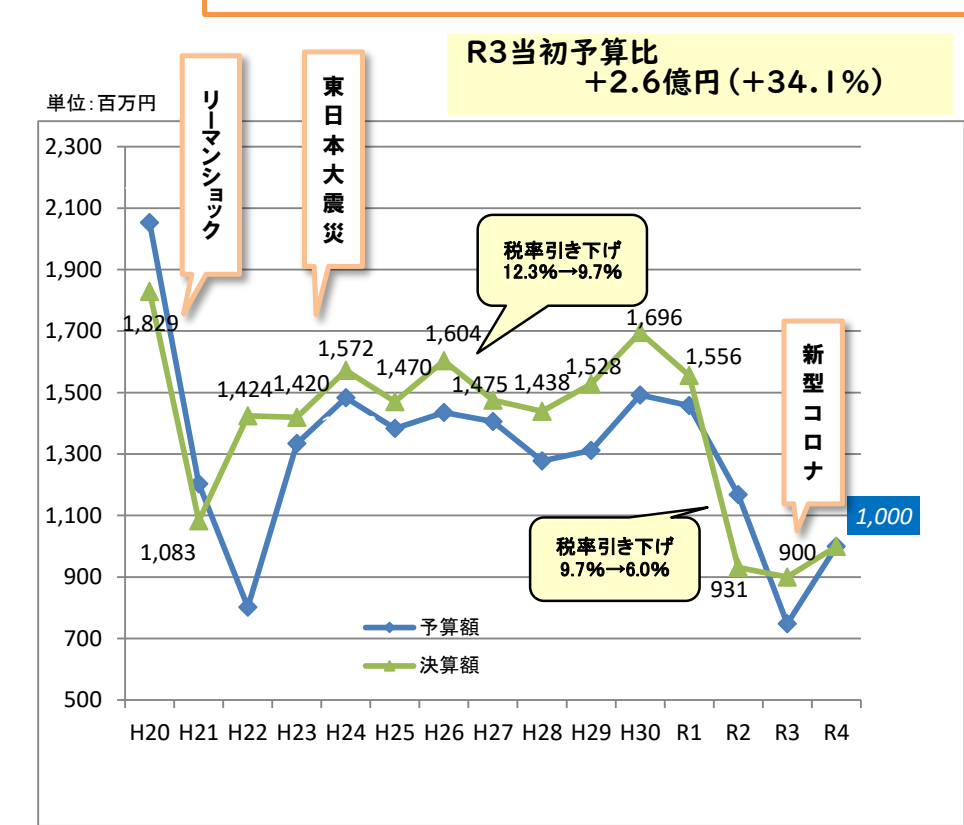
【市税合計】



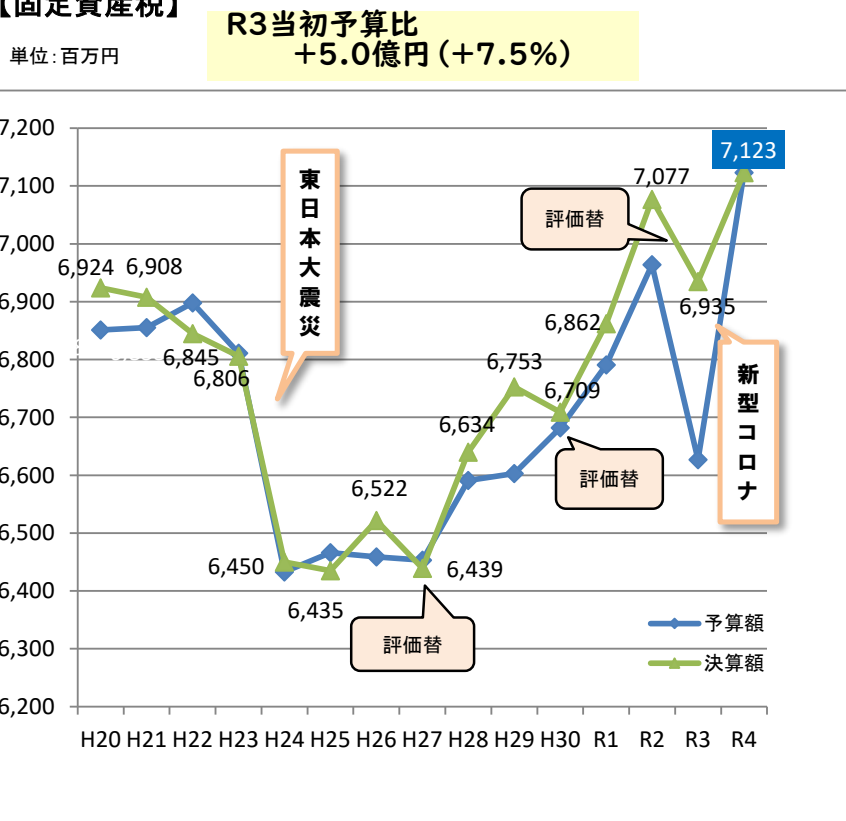
【個人市民税】



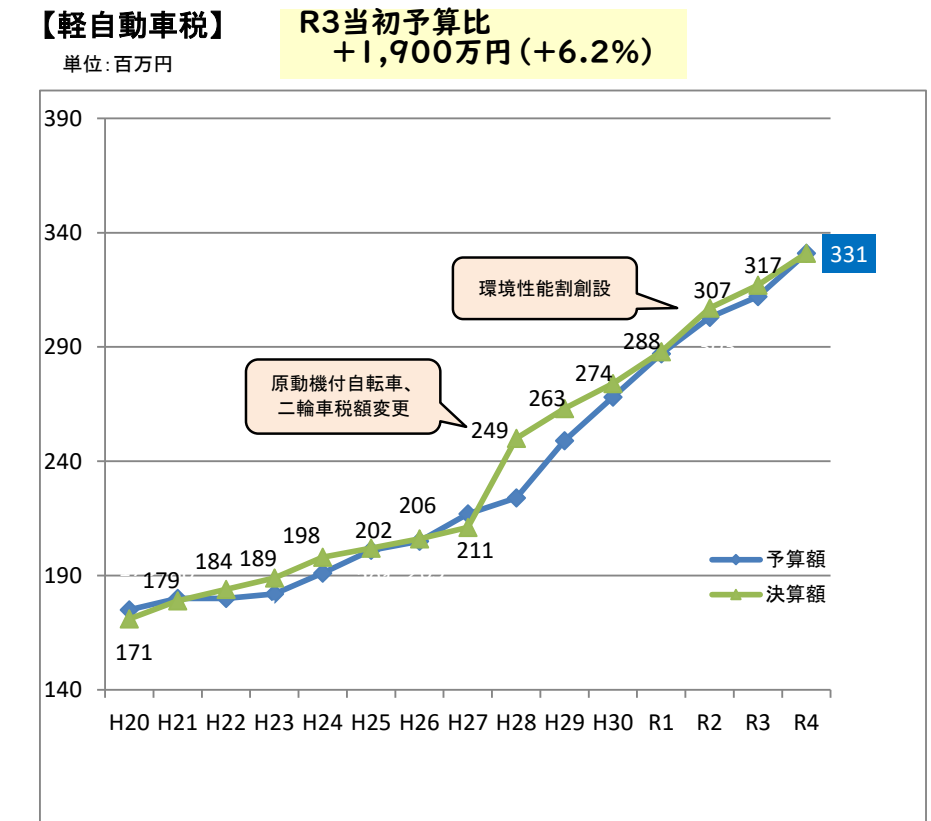
【法人市民税】



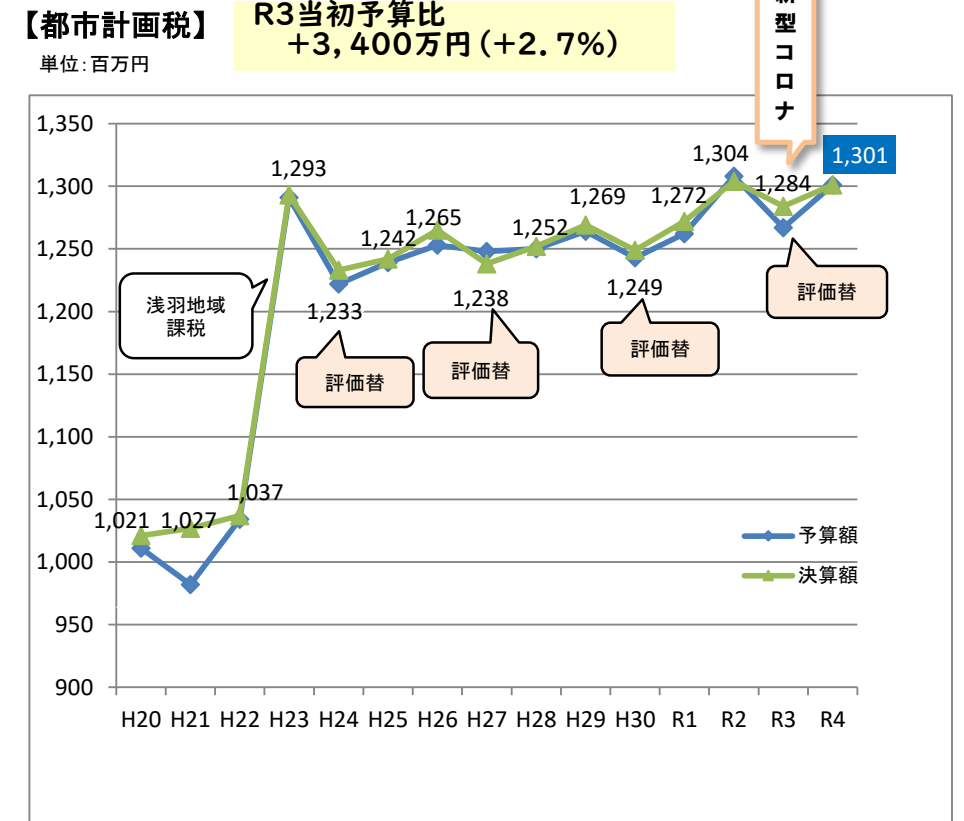
【固定資産税】



【軽自動車税】



【都市計画税】



※R3の決算額は見込み。R4年度は予算額